

災害から身を守るために

vol.3

「いざ」という時に…地震編(PART2)



シリーズ第三回目となる今回は、前回の地震発生後の心構えに引き続き、わが家における、日ごろからの地震への対策などについて主な項目をお知らせします。

■普段からのわが家の対策

1 防災訓練

- 日ごろから防災訓練に積極的に参加し、防災行動力を身につける。
- 自主防災組織などにも積極的に参加する。

2 家庭の防災会議

- 家族の役割などを普段から確認しておく。
- 応急手当の仕方を学習しておく。
- 避難場所や避難経路を確認しておく。

3 わが家の安全点検

- 柱や土台、屋根瓦、ブロック塀などを点検し、補強しておく。(ブロック塀などは、できれば生け垣にすることが望ましい)
- 家具の固定や置き場所の工夫をして、安全なスペースを確保しておく。

Q:「マグニチュード」と「震度」はどう違うの?

A: マグニチュードは、地震の大きさを相対的に測る尺度(スケール)で、震度とは、その場所がどれくらい揺れたかを示すものであり、その2つの数値は必ずしも比例するものではありません。

また、マグニチュードは、1増せば約32倍、2増せば約1,000倍のエネルギーになります。



●地震のエネルギーを、11月3日の宮城県沖地震を基準に比較すると…

地震イベント	マグニチュード	エネルギー倍率
平成14年11月3日 宮城県沖地震(気仙沼沖)	6.1	1倍
昭和53年6月12日 宮城県沖地震	7.4	約88倍
大正12年9月1日 関東大地震	7.9	約700倍
平成32年頃までに 予想される 宮城県沖地震(長期評価)	7.5 ~8.0	約120倍 ~700倍

- 石油ストーブなどの暖房器具や灯油などの危険物の管理・保管に十分注意する。

4 非常用品の用意

- 非常持ち出し品などは、いつでも持ち出せるところに用意しておく。

5 火災を防ぐ

- 電気火災を防ぐには
- 電気機器は、どのような時にどの電源が遮断するかを確認し、またどのような安全装置が付いているのか確認してから購入する。

6 家族の安全の確認

- ガスや石油機器を安全に使うには
- 耐震消火装置や転倒時燃料遮断装置付きの石油、ガスストーブをできるだけ使用する。
- コンロ周辺の棚などに載せてある物が落ちないようにしておく。

…防災一口メモ…

●「災害は忘れた頃にやってくる」の語源東京大学の教授で物理学者の寺田寅彦博士(明治11年~昭和10年)の随筆「天災と国防」の中の「…天災がきわめてまれにしか起こらないで、ちょうど人間が前車の顛覆を忘れたところに、そろそろ後車を引き出すようになるからであろう。…」という一文から、後の人々が名言として語るようになったのが最初といわれています。

- 避難後などに落ち合う場所をあらかじめ決めておく。
- 安否の情報を取り次ぎしてもらえ
- 親戚、知人(遠方に住んでいる人)を決めておく。
- N T T災害用伝言ダイヤル「171」など、緊急時の連絡手段を決めておく。

2 1 次回「いざ」という時のために:地震編(PART3)と題して、本地域において2020年までに、高い確率で発生すると予想されている地震の規模などについてお知らせします。問合せ先 市総務課防災交通安全係 ☎(22) 6600内線2